

**県民参加型ワークショップ（第42回県民フォーラム）
に係る検討調整会議（第1回）結果概要**

日時 平成30年5月8日（火）18:00～19:30
場所 かながわ県民センター 12階 第1会議室
出席者 県民会議委員：鈴木座長 大沼副座長
 施策調査専門委員会 吉村委員長
 市民事業専門委員会 増田委員長
 県民フォーラムチーム 森本チームリーダー
 コミュニケーションチーム 豊田チームリーダー
 事業モニターチーム 滝澤チームリーダー

内容（議題）

- 1 水環境保全・再生の県民参加型ワークショップ（第42回県民フォーラム）
初めに事務局から前回の県民会議（3/22開催）の提案内容について説明を行った。
- 2 企画内容等（(1) テーマ（コンセプト）～（6）分科会のテーマ、分化会リーダーなど）
資料により、事務局から開催（案）について説明した後、内容について企画検討を行った。

<委員からの主な意見>

(1) テーマ（コンセプト）

- 前回のワークショップと同じにならないように、新しいワークショップを目指してください。
- 会議を2部構成にしたらどうか。資料1、内容の(1)～(3)を1部、(4)～(8)を2部とし、第1部は幅広く、第2部は専門的に（100人程度）意見をいただく。せっかくやるなら、これまで話を聞いたことのない人を対象としたほうがよい。
- 第1部（参加者多め）・2部でねらいを分けて開催したらどうか。
- 大きなテーマを1つ決めて行るのが建設的であり、そのテーマは若い人達にも興味を持ってもらえるものがよい。
- 1部は門戸を広く、2部はそれぞれ満足していただく。レベル的に色々な意見が出てくるとまとめる方もまとまらない。
- せっくなので、前回と異なる若い世代を呼び込むしかけが必要。
- 名称が固いので柔らかくしたほうがよい。
- 名称は短く（半分くらい）したほうがよい。

(2) 参加対象者

- 対象者は、詳しい人、開催会場周辺の人、ボランティア、県下の大学のボラクラブ、サークルなど、税を意識していない人など。
- 1団体から多勢だと運営に支障がでる。
- 森林組合や市町村の事業担当者のみが対象者となると、成果の発信という面ではどうなのか。
- 参加される人の中には、一言言いたいという人もいる。そういう人に言ってもらえる場でもある。
- 若い人や大学生が大勢いると、色々な意見も出て幅広い意見交換ができるとよい。
- 神奈川県みどり会（県職員OB）を誘ってみてはどうか。
- 色々な立場の人が参加されるのはよい。県の河川部門、森林部門と連携協力していけばよいのではないか。
- 開催地の小中学校に発信してはどうか。そうすれば大人も小中学生と一緒に参加する。
- 環境・農林・土木の県議会議員へ広報を行ってみたらどうか。
- ワorkshopを開催するエリアの市町村議員に声かけをしてはどうか。
- 研修の一環として、県の職員の他部署の人が来て面白い。

(3) 開催日時、会場選定

- 開催候補日は、参加者が参加しやすい土曜日がよいので、12/1(土)か12/8(土)、会場候補は、①厚木、②橋本。135人溢れたら、小さい会議室で生中継。
- 展示については、事務局が作成するパネルを利用。

(4) 有識者による評価発表者(森・水)

- 有識者発表は、「森・水」に分けず、例えば「経済効果」、「税金の使途」として大沼先生や吉村先生にお願いするということも考えられる。

(5) 分科会のテーマ、分科会リーダーなど

- 分科会については、テーマを設定する必要あり、「ゴール」、「経済評価」、「県民会議そのもの」など。
- 分科会のテーマ、「森・水・税金」などが考えられるが、各委員に意見照会し、まとめる。

(6) 資料について

- 来場者が持って帰れる資料が必要。
- 都合が悪い人向けに「資料」を公開し、色々な人から意見をもらってはどうか。
- 配布資料については、H27のワークショップ資料のⅠのみとする案、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとする案、全体を圧縮する案などが考えられる。
- H27のワークショップ配布資料については、半分はこのまま使えるのではないかと。

(7) その他

- 討議、司会、書記などは公募委員にお願いしたい。
- 分科会の各部屋への誘導にも人員が必要。